

《担当者名》加藤正巳（非常勤講師）

【概要】

文章の読み、書きに関するリテラシーを高めるために開講された科目である。新聞などのメディアの読み方を身につけ、日頃から時事問題に関心を寄せる生活習慣を確立する。また、論文や論説文などの論理的な文章を、段落構成に注意しながら論理的に読解し、内容を要約する訓練を行う。論述試験を含む公務員試験や大学院受験を目指す学生にふさわしい内容になるだろう。

【学修目標】

新聞などのメディアの探し方、読み方に関するリテラシーを身につける。  
論説文を題材にして大意要約や読解力を高める。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	メディアリテラシーとは	社会や進学先で求められる主体的な情報インプット、アウトプットの大切さを理解する。	加藤 正巳
2	新聞の読み方・使い方	記事の構成や見出しの使い方を理解し、インプットツールとしての新聞に慣れ親しむ。	加藤 正巳
3	新聞の読み方・使い方	身近な社会の話題に関心を広げ、時事用語・できごとを理解する大切さや情報アウトプットの仕方を身につける。（アクティブラーニング）	加藤 正巳
4	新聞の読み方・使い方	経済記事を読み、社会への提案という形の情報アウトプットの仕方を身につける（アクティブラーニング）	加藤 正巳
5	新聞の読み方・使い方	各紙の記事を比べながら、一つの事実から導かれる内容の違いを理解する。	加藤 正巳
6	情報リスク管理	フェイクニュース、ステルスマーケティング、SNS炎上など、情報リスクへの感度を高める。	加藤 正巳
7	論説文の読み方	「文藝春秋オピニオン2020年の論点100」等を活用して、さまざまな社会課題を通覧する。対立する意見を比較しながら自分の考えを作り上げる習慣を身につける。（アクティブラーニング）	加藤 正巳
8	論説文の読み方 学習内容の振り返りと自己評価	対立する意見を比較し、その根拠となる資料やデータを探ってみる。後半は本講義を振り返り、自己評価を行うとともに、自律的な学習習慣の作り方を考察する。	加藤 正巳

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート80%、授業への取り組み態度20%で評価する。レポートはコメントをつけて返却するので復習に活用すること。

【教科書】

使用しない。その都度プリントを用意する。

【参考書】

文藝春秋オピニオン2020年の論点100（2020）  
 文藝春秋オピニオン2021年の論点100（2021）  
 大前研一 日本の論点2021～2022（2020）  
 北海道新聞朝刊、読売新聞朝刊、朝日新聞朝刊、日本経済新聞  
 上野千鶴子 情報生産者になる ちくま新書（2018）  
 荻上チキ すべての新聞は偏っている 扶桑社（2017）  
 笹原和利 フェイクニュースを科学する 化学同人（2018）

【学修の準備】

一部の授業期間中は新聞を学生自身が購入し読むように指示される。  
指定されたテキストを読む、背景を調べるなどの課題が出る。予習・復習の目安として、1講義あたり1時間を予定している。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得する、というポリシーに合致している。

**【実務経験】**

新聞社、広告代理店、プロサッカーチームの運営会社、金融機関

**【実務経験を活かした教育内容】**

新聞社及び金融機関において得た社会人経験を反映させた時事教育を行う。